

Re-Design Management Laboratory

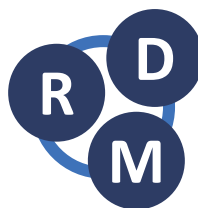


2023年11月25日にLIFORTの拠点でもある広瀬団地で開催された文化祭の様子。日頃は駐車場の場所をキッチンカーが出店する場所として活用した。

Annual Report 2023

2024.06 vol.05

法人理念	01
事業概要	02
研究活動	04
事業紹介	09
体制・財務等	10



特定非営利活動法人
リデザイン RDM Lab
マネジメント研究所

持続可能な社会を目指した公共資産経営の支援

新たな仕組みづくりの開発と支援

近年の少子化・高齢化や人口減少の動向は、多くの自治体の財政悪化に大きな影響を与えています。ひとことで「自治体」と言っても、その公共施設や土木インフラなど公共資産の整備状況は自治体により大きく異なり、全く同じ状態の自治体は存在しません。そのため財源だけでなく人材や資源も少ない多くの地方自治体では、自治体だけに頼らず住民ら地域全体で特性を踏まえた地域生活のあり方を検討し、豊かな生活の実現に繋がる公共資産の整備を共創する仕組みが必要です。

本来、自治体は公共資産を管理している組織に過ぎません。そのため公共資産は自治体ではなく住民の資産と言えますが、自治体職員もまた住民です。さらに公共資産は地域全体の産業・生活活動の拠点でもあるので、自治体はあらゆる世代の住民らとともに産業・生活そして財政状況などの現状を公平かつ客観的に判断し、これから必要な公共資産を整備しなければなりません。しかし現実には、財政を圧迫するだけの結果しか生まない安易な公共資産整備があまりにも多く見られます。自治体にとって本当に望ましい公共資産整備が実現する社会に変わるためには、立場や世代に関わらず全ての住民が日頃から公共資産に関心を持ち、

そのあり方について客観的な根拠を基に議論できる下地を築くことから始める必要があります。そこで 2010 年には早稲田大学理工学研究所に MoRE（施設管理・運用に関する研究会）を設立、2016 年 10 月からは JST/RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域研究開発プロジェクト「地域を持続可能にする公共資産経営の支援体制の構築（BaSS プロジェクト）」において、本格的に公共資産の多世代共創を目指し研究活動と自治体支援を開始しました。

これらの成果は少しずつ実現しつつありますが、2020 年 3 月の研究開発プロジェクト終了後も研究成果を引き継ぎ、全国の自治体の公共資産整備における産官学の結節点となる第三者的な組織として特定非営利活動法人リデザインマネジメント研究所(RDM ラボ)を設立しました。RDM ラボは、社会的な信用を得た健全な法人運用を行うとともに、広く一般の住民が地方自治体とともに地域資産の利活用による豊かで持続可能な社会を実現するため、産官学との連携により既存の政策・制度・体制・手法等を再検証し、課題解決を目指す新たな仕組みづくりの開発と支援を行います。

BaSS プロジェクトから RDM ラボへ

【産官学との連携】 BaSS プロジェクトは、多くの実践者とともにマネジメントの基本である PDCA サイクルに準じた作業分担による体制を構築してきました。RDM ラボでは BaSS プロジェクトで培ったノウハウと産官学による役割分担 (PDCA) と相互協力を担える人材・体制を活用し、幅広い専門家と連携しながら事業を進めています。

【多世代によるまちづくり】「学生徒 (10 ～ 20 歳前後)」自らが生産活動の基盤となる公共資産整備に参加する仕組みを創設することで、「高齢者 (65 歳前後～)」や「社会人 (20 ～ 65 歳前後)」らを巻き込み地域住民全員 (地域全体)

を生産活動の主体に転じさせ、結果的に資産整備の世代間負担の縮減や地域産業・生活の活性化に繋がる多世代共創の仕組みを構築します。

【研究による社会貢献】 RDM ラボでは、産官学との連携により既存の政策・制度・体制・手法等を再検証し、課題解決を目指す新たな仕組みづくりの開発と支援を行うため、事業活動とともに研究活動を重視します。特定非営利活動の目的である不特定かつ多数のものの利益に寄与することを目指し、事業により発生した収益は研究活動のための資金として活用し、その成果を多くの方々に還元します。

非営利活動 + 研究活動

RDM ラボでは、定款に挙げた 7 つの活動を踏まえ、主に次の 7 事業をそれぞれ自主・受託・研究事業として展開しています。

- ・講演会・ワークショップなどの開催による社会教育事業
- ・地方自治体の行財政改革支援事業
- ・地域資源を都市整備に活用する地域再生事業
- ・施設や資源などの管理運営に関する技術開発事業
- ・教育機関などとの連携による多文化交流・学生支援事業
- ・地域や都市を活性化を実現するまちづくり事業
- ・地域の経済的活動を支える仕組み・組織づくり事業

●定款に掲げる特定非営利活動の種類

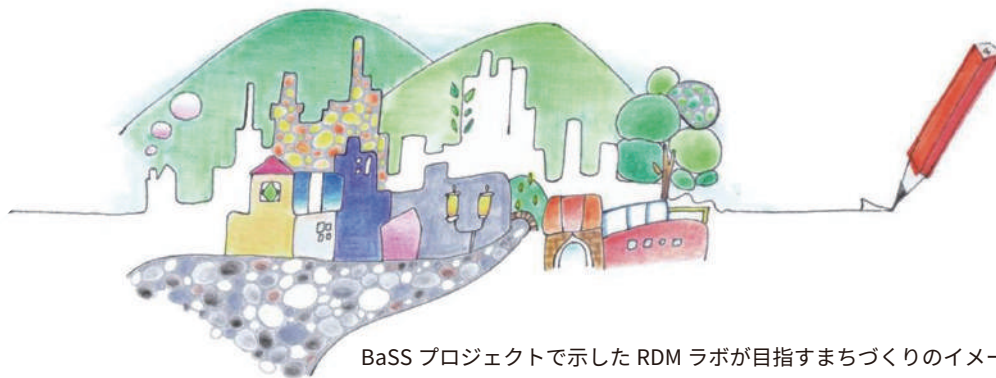
- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 環境の保全を図る活動
- (6) 国際協力の活動
- (7) 経済活動の活性化を図る活動

事業概要

RDM ラボでは BaSS プロジェクトの研究成果を継承し、持続可能な社会を実現するために、自治体のファシリティマネジメント（FM）支援を中心に事業を展開しています。定款に定める下記のような事業を実施してきました。また昨

年度からは受託事業のほか、研究活動や自主事業であるまちづくり事業を開始しました。

なお 2023 年度の具体的な事業については次ページ以降に記載します。



BaSS プロジェクトで示した RDM ラボが目指すまちづくりのイメージ図

挑戦と創造



あらゆる領域への挑戦。
非営利団体としての価値創造。

地域全体での生産活動



産官学民による地域づくり。
FM からまちづくりまで。

専門家シンクタンク



建築・インフラ・データ解析 etc...
専門家ネットワークの活用。

事業	主な業務と内容
講演会・ワークショップなどの開催による社会教育事業	施設基本計画策定に向けた住民ワークショップ業務 施設基本計画のため機能等について住民と議論するワークショップの実施支援。 河川利活用推進に向けたシンポジウムの開催支援業務 河川周辺の今後のまちづくりに関するシンポジウムを大学と連携して実施支援。
施設や資源などの管理運営に関する技術開発事業	施設長寿命化保全計画策定支援業務 長寿命化に係わる劣化調査並びに評価・各種フォーマット整備、改修等の支援。 中長期保全計画策定支援業務 公民館、文化施設の個別施設計画を策定。
地方自治体の行財政改革支援事業	公共施設再配置検討支援業務 庁舎のあり方検討をモデルケースとして公共施設の再配置計画を策定。 庁舎再編詳細調査業務 庁舎及び周辺施設再編に向け、費用算出及び妥当性検証、法適合性調査等の支援。
地域資源を都市整備に活用する地域再生事業	広域連携促進支援業務 複数自治体による広域連携推進支援。広域連携の可能性調査・研究、体育、文化ホールの共同利用による費用対効果検証や推進体制整備に対する支援を実施。
地域や都市の活性化を実現するまちづくり事業	まちづくり事業「LIFORT プロジェクト」（自主事業） 大学生の生活支援から展開する多世代協働の団地再生プロジェクト。シェアルームの整備を行い、大学生へ「金融」「住居」「生活」「就職」に関する支援を通して、支援を受けた学生自らが地域活性化の担い手として活動する。
教育機関との連携による多文化交流・学生支援事業	学習塾事業 前橋市内の商店街での空き家が目立ち活気を失っている現状を変えたいと思い、学生主体で空き家を活用した学習塾 benten study place を運営。現在 RDM ラボは運営母体ではなく、民間の個別学習塾と連携して継続。

広瀬川利活用推進プロジェクト

現在、広瀬川を含む群馬県前橋市中心市街地エリアでは様々な団体・個人・商店が日々の活動や各種イベントを通して、地域活性化に向けて活動されています。しかし、多くの活動やイベントは連携がなく、別個に実施されている場合が多く、シナジー効果を得る機会が少ない現状にあります。

そこで前橋工科大学堤研究室が主導して、広瀬川を近隣住民が日常的に立ち寄る質の高い空間を形成するため、主に雷神橋から久留万橋までの広瀬川周辺（「タチヨルエリア」と名づける）において、新たな公益性の創出、イベントや出店の促進、情報ネットワークの構築、地域活動の実施や支援など、産学官協働による都市経営を推進する仕組みづくりを目的とする任意団体が立ち上がりました。RDM ラボはこの任意団体の一員として、広瀬川利活用に向け取り組んでいく予定です。



山村活性化対策事業 in 藤岡市三波川



日本一の冬桜が咲く桜山を軸にした三波川森林空間活性化事業に業務支援として参画しました。本事業は、過疎化が進み、基幹産業の林産業が衰退している群馬県藤岡市の振興山村・三波川地区における林産業活性化事業です。

冬桜が 7000 本咲く桜山公園の周辺の森林空間を「森林セラピー認証」により付加価値を向上させ、森林資源を活用した体験プログラムを造成することを目指しています。初年度から 3 年目にかけて、森林セラピー認証を取得しガイドを育成、3 年目には森林セラピートレイルとして観光 AGT 等と連携し、着地型観光を実現する予定です。

また、トレイル造成で産まれる廃材を活用した木質パネルによるリノベーションサービスの販路拡大を産学連携により進め、三波川の林産業の所得拡大を目指す取り組みです。



木製ブース「ウチソト」

広瀬団地のシェアハウス内に設置する基本 700×2100 mmの木製パネル 12 枚を屋根 / 壁 / 机 / 棚として自由に組み合わせたブース「ウチソト」を製作しました。日頃は室内で組み立てプライベートな空間を充実し、イベント時などには室外に持ち出してパブリックな空間に自分の空間を設置できます。

この「ウチソト」によって団地住民の生活や活動の幅と魅力が拡大し、団地が持つポテンシャルを最大限に活用した住民同士の取り組みが増えることを期待しています。使用感や設置したことによる効果測定などを行っていきます。



公共施設長寿命化保全計画策定支援業務

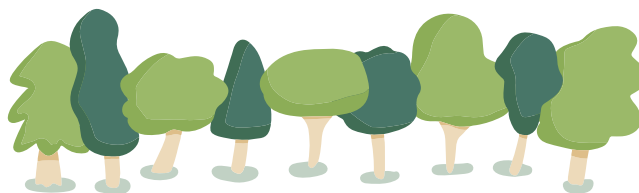
地方自治体の行財政改革支援事業

Development Long-range Facility Maintenance Plan

本業務は、公共建築物の老朽化等に対応し、長期的な視点で効率的かつ安全な管理運営を実現するため、所有施設の現時点の劣化状況と過去の改修履歴を踏まえた今後の保全改修工事の実施方針及び改修ライフサイクルコストを位置付けた「長寿命化保全計画」を策定することを目的として受託し、実施しました。

部位基本仕様や基本能力を詳細に把握するために、対象施設の全棟調査及び図面調査に加えて数量等の積算を実施しました。これをもとに、劣化判定を行い、「安全面・耐久性」「機能快適性」「環境面」を確保した長寿命化・長期使用を想定した改修工事計画とするために工法・グレードの選定を行いました。以上を踏まえて改修金額の算出し、目標使用年数までのライフサイクルコストを算出し、長寿命化保全計画としました。

長寿命化保全計画は策定して終わりではなく、今後の実行の段階が公共施設マネジメントでは重要になります。



住民ワークショップ業務

講演会・ワークショップなどの開催による社会教育事業

Residents' Workshop

● 施設大規模改修基本計画ワークショップ

本業務は大規模改修の時期を迎えた市立図書館の改修基本構想及び基本計画策定に向けた市民ワークショップです。当該施設は、広場や他施設等が隣接する立地であり、図書館単独の再整備ではなく、周辺と連携した計画とする必要があります。ワークショップでは、連携のアイデアや従来図書館を利用する事が無かった市民に向けてどのような仕掛けがあると良いか等を議論しました。



● 庁舎等利活用検討ワークショップ

本業務は、2庁舎体制の統合に伴う、移転元の施設の利活用を検討するためのワークショップです。周辺には公民館や図書館、歴史館等が立地し、文教ゾーンとして役割を担う性格があります。利活用のアイデアだけでなく、この地域を将来的にどのようなまちにしたいか、理想とそれに向けた課題・ギャップ、今自分たちにできることなどを自分事として話し合いました。



施設再整備支援業務

Support for Facility Redevelopment

本業務は、施設の管理運営について、今後の維持管理にかかるハード面の費用把握だけでなく、今後の再整備の方向性を検討するため、建替え計画を中心とした中長期整備計画の策定業務です。

建物や施設は建築後30年程度経過すると老朽化していたと考えられています。しかし、建物は計画的に保全を実施すれば、長期にわたって使用できる可能性があることから、点検や修繕の指針が必要となります。そこで本中長期計画では建物を18部位に分け、それぞれに更新単価・更新周期を設定し、実態に即した更新費用を算出します。

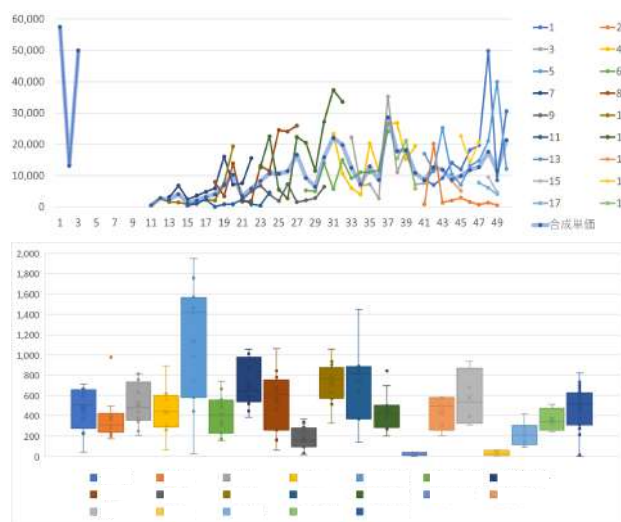
また中長期的な視点から、改修を行うのか建替えを行うのかの検討が難しい場合は、複数の「たたき台」を提示し、多角的に改修や建替えを検討することで、再整備の可能性を共有します。



施設や資源などの管理運営に関する技術開発事業

ライフサイクルコスト分析支援業務

Analysis of Building Lifecycle Cost



本業務は、民間のデータセンターが所有する18施設の修繕費情報を用いて、修繕費の経年推移の傾向を把握し、今後の修繕業務に活用するためのデータ分析を中心とした検討支援業務です。

民間企業も自治体も、これまで施設修繕や工事費等に関する情報は収集・保管はしているものの、有効に活用できていないケースが多くみられます。データをもとにした事業・政策を進めるためには、データの活用方法を理解しておかなければなりません。

RDM ラボでは建築ストックの有効活用に向けて、民間企業へはCRE戦略支援、自治体へは公共施設マネジメント支援のための各種データ分析業務を実施しています。またこれらの成果を論文等で発表し、広く全国へ展開する取り組みを行っています。

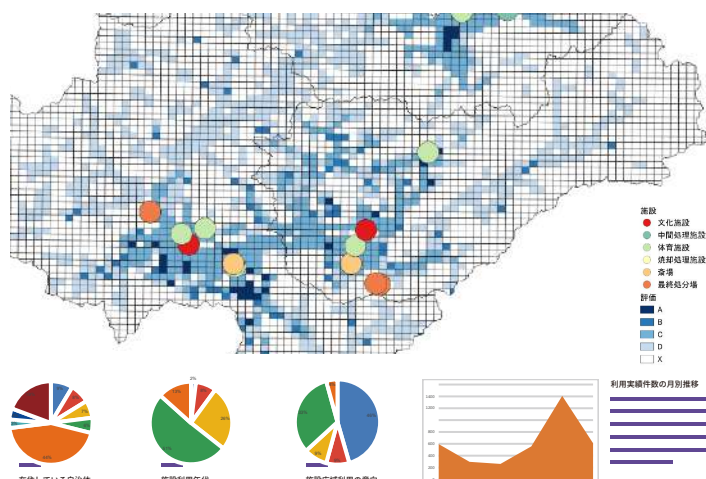
施設や資源などの管理運営に関する技術開発事業

広域連携促進支援業務

Promotion of Wide-area Collaboration

本業務は、複数市町が所有する体育施設・文化ホール・中間処理施設等の広域連携・共同利用等に向けて対象施設の利用状況や施設評価等についてデータ整理・分析、予約方法の統一化や、既存予約システムの有効活用の検討などの支援を行いました。

人口減少社会においては、今後全国各地で広域連携の取り組みが進んでいくと予想されます。現段階から、将来を予測して持続的な住民サービス提供の基盤の整備と市町村域を越えた連携体制の構築は、公共施設マネジメントにおいても重要な位置づけとなるでしょう。まずは情報共有や基礎データ整理から今後の方向性を定め、小さくも様々な取り組みを始めていくことが必要です。



地域資源を都市整備に活用する地域再生事業

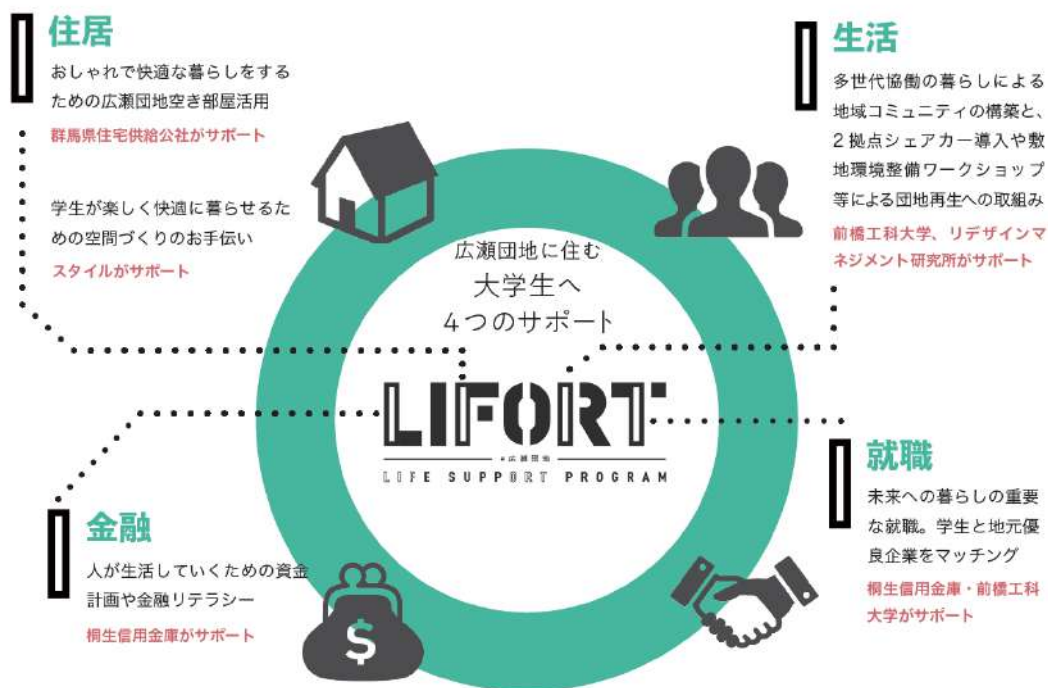
広瀬団地 LIFORT プロジェクト

地域や都市を活性化を実現するまちづくり事業

Life Support Program Project in Hirose Residential

本事業「LIFORT（LIFE と SUPPORT を組み合わせた造語）」は、桐生信用金庫、前橋工科大学、群馬県住宅供給公社、有限会社スタイルそして RDM ラボがチームを組み、2022 年 4 月から大学生向けのシェアルームを実装し、「金融」「生活」「就職」面から支援しています。

将来的には、LIFORT のプログラムを享受した大学生自らが、団地再生の実施者として LIFORT を運用し地域づくりの主体となる循環的かつ持続可能な仕組みを目指しています。現在、入居者は 6 名となり、今後更なる学生主体の地域活動やイベントの実施など様々な展開を考えています。



LIFORT

広瀬団地

LIFE SUPPORT PROGRAM

住所：群馬県前橋市広瀬町 2 丁目

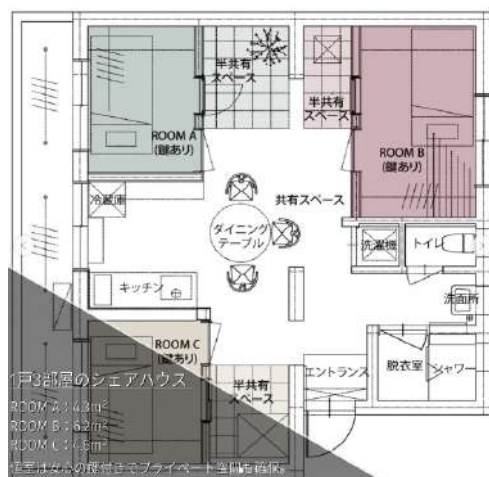
所有：群馬県住宅供給公社

名称：広瀬公社賃貸住宅全 112 戸中対象 12 戸

※前橋工科大学から 3km 弱、周辺には県営・市営住宅が混在する
群馬県内最大規模の住宅団地



■ 団地シェアハウス詳細情報



● 基本情報

家賃：25,000 円
契約保証金：50,000 円

● アクセス

JR 両毛線 前橋大島駅から徒歩 15 分

● 周辺施設

コンビニ	徒歩 3 分 (300m)
銀行徒歩	徒歩 1 分 (50m)
郵便局	徒歩 1 分 (50m)
ドラッグストア	徒歩 6 分 (500m)
赤十字病院	車 4 分 (1.8 km)
スーパー銭湯	車 4 分 (1.4 km)

※入居者随時募集中

● 団地内オープンスペース「広瀬ステーション」



団地から徒歩 2 分。デスクやキッチン、冷暖房が完備されており学生が自由に使用できます。（一部制限あり）昨年は日々の課題や作業を行うほか、食事会、地域イベントなどに使用しています。

■ 2023 年度の活動の様子

4月、10月



● グランドゴルフ大会
広瀬町 2 丁目の区長から学生 × 団地住民のグランドゴルフ大会の提案があり開催しました。学生発信ではなく、団地住民からの提案・実施により、多世代の交流が深まってきています。毎年恒例の企画として定着しつつあり、今後も年 2 回の開催を予定しています。またソフトボール大会も予定しています。

7月



● りそうのいえをつくろう！ 2023
- 家型貯金箱ワークショップ -
隣接する飯玉神社では、7 月 7 日の七夕に子ども向けイベントを毎年行っています。地域との連携を踏まえ、前橋工科大学の学生が企画し、建築 × 夏休み自由研究として子ども向けの住宅を模した貯金箱製作ワークショップを同時開催しました。

4月、9月



● 花壇の整備
広瀬公社賃貸住宅団地の横を走る道路沿いには立派な花壇があります。大学生が企画して団地住民を巻き込みながら一緒に花壇の再整備を行っています。
周辺を散歩している地域の方々から雰囲気明るくなったなどの声もいただき、団地のアウトラインを浮かび上がらせています。

7月



● 学生企画「流しそうめん・花火大会」
シェアハウスに入居する学生が初めて企画した地域活動です。今回初めて参加したという地域の小学生がたくさん集まっていたでき、若い力を感じた 1 日でした。

■ 団地シェアハウス新入居者インタビュー

2022 年 4 月から本格的に指導した LIFORT プロジェクトのシェアハウスですが、2024 年 4 月から新たに 2 名の入居者を迎え、現在 6 名の入居者が活動しています。

団地に住まう学生が中心となって地域活動に取り組みながら活性化を目指す LIFORT プロジェクトについて入居者の皆さんにインタビューを行いました。

● 新規入居者の声



前橋工科大学建築都市環境工学群
一年生・A さん（男性）

Q: 団地シェアハウスをどこで知りましたか？

A: 学生寮を探している途中、大学のホームページで見つけました。

Q: 入居を決めた理由は何ですか？

A: もともとリノベーションに興味があったので決めました。また始めて暮らす土地なので頼りにできる人がいる状態で大学生活を始めたかったということがあります。

Q: どんなことをしたいですか？

A: 団地住みにくいというイメージを払拭できることをしたいです。



前橋工科大学建築都市環境工学群
一年生・M さん（女性）

Q: 入居を決めた理由は何ですか？

A: 家賃が安いところと、同じ学生がいるので安心できるというところでここにしました。

Q: 一か月住んでよかったことはありますか？

A: 団地関係者で行った新入生歓迎会が楽しかったです！

Q: 入居者の人になりたいことはありますか？

A: たくさんの力を借りれる環境なので一人ではできないことをやり遂げたいです。

11月



●ハロウィンパーティー
シェアハウス学生発案による2023年度第2弾目のワークショップです。
参加者は学生のシェアハウスを巡ったあと、ビンゴ大会やボードゲームなど、学生と地域の小学生たちとの交流を促すイベントとなりました。
今後も LIFORT 学生を中心に、地域との連携を推進するイベントを行います。

12月



●焼き芋会
3回目の開催となった焼き芋会。毎年恒例のこのイベントは、年内最後の12月の団地一斉清掃日に、広場で育てたさつまいもを広場で集めた落ち葉を使って行います。今では団地住民及び隣接する飯玉神社、さらに LIFORT の活動に賛同して協働する関係者が集まる日になりました。

11月



●団地を楽しむイベント
「妄想文化祭」
LIFORT プロジェクト最大のイベント。シェアルームを使った1日限りのアート展示やキッチンカー、団地内広場での参加型ライブペイント、全国の団地に住まう学生によるシンポジウムなど、新しい多世代団地のあり方を考える楽しい1日になりました。
なお、社会教育団体 odd school と連携し開催したイベントです。

入居者が確実に増えていることから、団地や地域住民の認知や協力もより協力になり、活動の幅も広がっていることがコメントからも伺えます。

●先輩入居者の声

Q:一年間住んだ感想を教えてください。

A:常に友人が近くにいて様々なことを協力できたことがよかったです。またLIFORTに関わっていることで得ることができた人間関係からいい刺激を得ることができました！



二年生・Mさん

Q:昨年活動を行って得られたことはありますか？

A:いくつかの活動を行い、企画から準備、運営などの流れを学びました。今年は、昨年学んだことを活かして、また新たな活動を行いたいです。



二年生・Sさん

Q:今年どのような活動を行いたいですか？

A:シェアハウスに住む学生の人数が増えたので、昨年の改善点を踏まえ規模感の大きい地域のイベントをやりたいです。



二年生・Nさん

Q:実際にシェアして感じたことはありますか？

A:生活をともにしていくうえでは家事の分担や気を使うこともありますが、とてもたのしいです！



三年生・Tさん

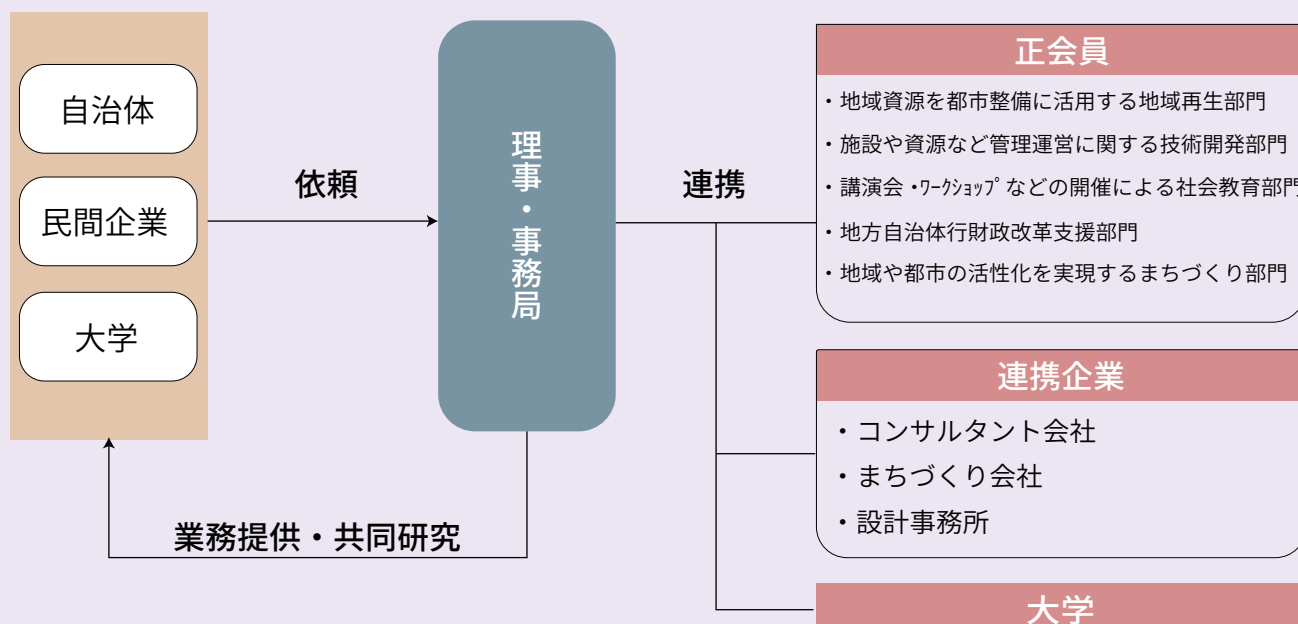
LIFORT
#広瀬団地
LIFE SUPPORT PROGRAM

RDM ラボの業務・連携体制

RDM ラボを構成する正会員及び賛助会員には多種多様な分野を専門とする個人や組織が参加しています。これら専門家ネットワークによって、自治体支援から市民参加の社会教育、各種イベントまで幅広い業務や自主事業、研究活動に取り組んでいます。

また、積極的に民間企業・大学との連携体制を組み、様々な業務や研究活動に取り組んでいます。さらに、自治体との包括連携協定等の締結など、RDM ラボのミッションである公共資産整備における産官学の結節点となる第三者的な組織としての役割を果たします。

● 業務実施までの流れ



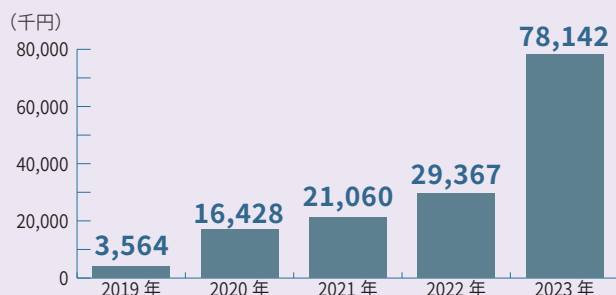
財務ハイライト

設立 5 年目の 2023 年度は、これまでの事業年度で最も高い営業収益、受託案件数となり、当初事業計画にほぼ従った活動を展開することができました。

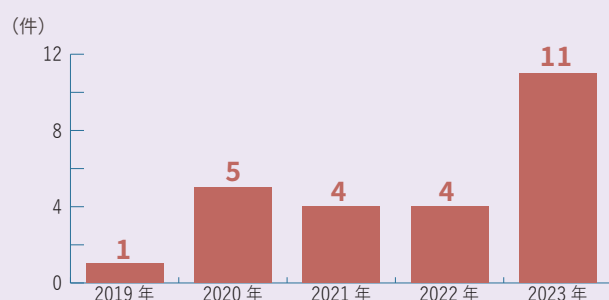
2024 年度は RDM ラボ設立から 6 期目になります。新たな

スタートの年度と位置づけ、今後も自治体支援事業を中心に、自主事業である群馬県前橋市のまちづくりや各種研究活動に積極的に取り組み、RDM ラボが目指す「持続可能な社会を目指した公共資産経営の実現」を目指します。

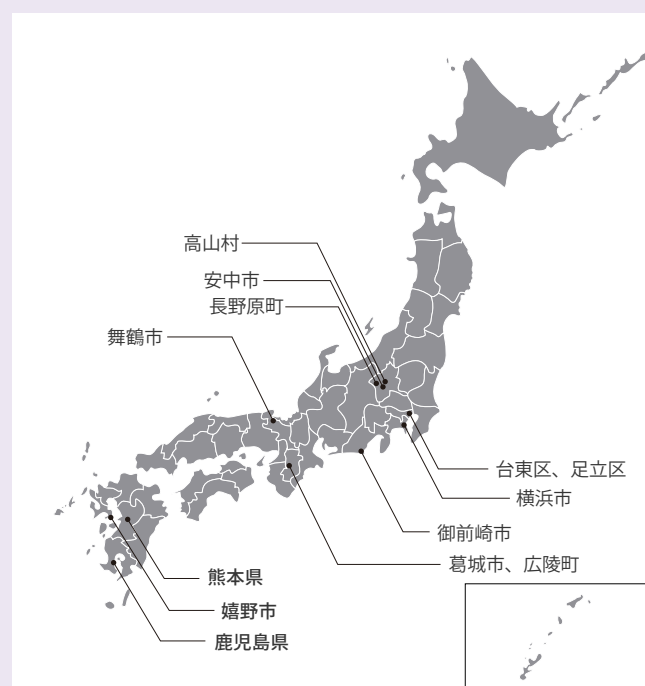
● 年度別収益の推移



● 受託案件数の推移



● これまでの業務実施場所 ※公共、民間両方を含む



組織略歴

2016.10	BaSS プロジェクト発足
2019.4	RDM ラボ設立 主たる事務所を東京に設置
2019.7	初の自治体発注業務を受託
2020.3	BaSS プロジェクト終了
2020.12	まちづくり事業「LIFORT プロジェクト」開始
2021.1	群馬県前橋市に従たる事務所を登記
2024.4	舞鶴市と包括連携協定を締結



受賞歴・メディア掲載

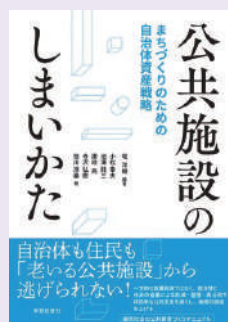
- ・「LIFORT プロジェクト」ー第 13 回地域再生大賞 優秀賞受賞 <https://chiikisaisei.jp/vol13group-2/>
- ・「LIFORT プロジェクト」ー上毛新聞「Rebirth 団地再生（長期連載）」・読売新聞記事掲載
- ・「LIFORT プロジェクト」ーFM ぐんま「news ONE」特集
- ・RDM ラボ社員ー上毛新聞社第 31 期「視点オピニオン」委員就任 <https://www.jomo-news.co.jp/category/shiten>

関連書籍・出版

RDM ラボ設立のきっかけとなった Bass プロジェクトの成果は書籍として出版されています。

例えば「公共施設のしまいかた」は自治体職員に限らず、ファシリティマネジメントに関する知識がない方にもわかりやすく事例紹介を交えた内容となっています。

今後の公共施設を官民連携で考えるためにぜひ手に取っていただきたい 1 冊です！



RDM ラボ 会員募集

RDM ラボは NPO 法人（特定非営利活動法人）です。

どなたでも会員になることができます。

RDM ラボの事業や活動にご興味がある方はぜひご入会ください。

- 入会金：正会員（個人・団体）5,000 円、賛助会員（個人・団体）30,000 円
- 年会費：正会員（個人・団体）5,000 円、賛助会員（個人・団体）一口 20,000 円

入会希望の個人または団体の方は、入会申込書に必要事項ご記入のうえ、NPO 事務局宛に電子メールもしくは郵送でお送りください。後日、口座情報をお送りいたしますので、指定口座にお振込ください。

※入会申込書 <http://rdm-lab.net/site/form.pdf>



「山村活性化事業 in 藤岡市三波川」
山の中で設置した木製ブースの様子



Re-Design Management Laboratory

Annual Report 2023



特定非営利活動法人
リデザイン
マネジメント研究所

RDM Lab



法人名
本社住所
前橋オフィス
Email
URL

特定非営利活動法人リデザインマネジメント研究所
東京都渋谷区代々木 3-36-8-307
群馬県前橋市千代田町 3-4-7
rdmlab.office@gmail.com
<https://rdm-lab.net>

理事長
理事
理事
理事
監事

渡利和之 (株) ドローアップ代表取締役
小松幸夫 早稲田大学名誉教授
鈴木敏彦 工学院大学教授
堤洋樹 前橋工科大学准教授
高橋康夫 群馬県建設技術センター FM 室長

2023 アニュアルレポート 2024 年 6 月 1 日発行
編集：特定非営利活動法人リデザインマネジメント研究所